



目次  
CONTENTS

目次	1
計画の構成	2~3
参考：中央区 区ビジョン基本方針(抜粋)	4~5
各区のすがた	6~7
<b>I 中央区の概要</b>	8~14
<b>II 中央区区ビジョンまちづくり計画体系図</b>	15
<b>III 中央区の現状、特性と課題／ まちづくりの方針</b>	16~46
● 魅力的で活力あふれる拠点のまち /16~23	
● 安心してすこやかに暮らせるまち /24~33	
● 水と緑が調和したやすらぎのあるまち /34~38	
● 未来につなぐ歴史・文化のまち /39~43	
● 区政運営の基盤 /44~46	

## はじめに

中央区区ビジョンまちづくり計画は、新潟市総合計画（にいがた未来ビジョン）の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取組みと、実施計画に相当する具体的な取組みを示した中央区のまちづくり計画です。

計画期間は、平成27年度から平成34年度までの8年間とします。

ただし、実施計画は、取組みの実施状況や社会・経済状況の変化などに対応するため、2年ごとに策定し進捗管理を行います。

## 計画の構成

### 【新潟市次期総合計画とは】

- 新潟市が目指すまちづくりのあり方を示すもので「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。区ビジョンまちづくり計画の上位計画です。
- 「基本構想」「基本計画」は平成27年度から8年後の平成34年度までを計画期間とし、新潟市の目指すまちづくりの方針と、その実現に向けた政策と施策について記載するものです。また、施策の実現に向けた具体的な取組みを掲載する「実施計画」は2年ごとに見直しを行います。

### 【区ビジョン基本方針とは】

- 中央区の将来像や目指す方向などを示すものです。
- 新潟市次期総合計画の「基本計画」の一部として策定されます。
- 中央区自治協議会で検討・審議をしていただき、議決を経て策定しました。

### 【区ビジョンまちづくり計画とは】

- 「基本計画」と「実施計画」で構成され、うち「基本計画」は、区ビジョン基本方針を踏まえ、より具体的な取組みの方向性を示すものです。
- 計画期間は、平成27年度から平成34年度までの8年間となります。  
構成は、「Ⅰ 中央区の概要」「Ⅱ 中央区区ビジョンまちづくり計画体系図」「Ⅲ 中央区の現状、特性と課題／まちづくりの方針」となっています。
- 「実施計画（別冊）」は、2年ごとに策定し、進捗管理を行っていきます。

## 新潟市総合計画 (にいがた未来ビジョン)

### 【基本構想】

まちづくりの理念と  
目指す都市像

### 【基本計画】

基本的な政策や施策、  
土地利用の基本的な  
方向性

### 区ビジョン基本方針

### 【実施計画】

基本計画で示した  
施策を実現するための  
具体的な取組み  
(2年ごとに策定)

## 中央区区ビジョンまちづくり計画

### 【基本計画】

#### I 中央区の概要

- |      |        |      |
|------|--------|------|
| 1 地勢 | 2 歴史   | 3 自然 |
| 4 人口 | 5 土地利用 |      |
| 6 産業 | 7 交通   |      |

#### II 中央区区ビジョンまちづくり 計画体系図

#### III 中央区の現状、特性と課題/ まちづくりの方針

- 魅力的で活力あふれる拠点のまち
- 安心してすこやかに暮らせるまち
- 水と緑が調和したやすらぎのあるまち
- 未来につなぐ歴史・文化のまち
- 区政運営の基盤

### 【実施計画】

上記で示した施策を実現する  
ための具体的な取組み (別冊)

## 区の概要

### 地理

中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け、中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。

区内では土地の高度利用が進み、さまざまな都市機能が集積しています。その一方で、国の重要文化財である萬代橋や湊町の歴史的建造物など、伝統的文化を感じることのできるまちなみも存在しています。

### 産業

古町、万代、新潟駅周辺に代表される市街地は、商業集積がにぎわいを見せ、ヒト・モノ・情報が活発に行き交う、本市の商業の中心となっています。

また、北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組みが進められています。

### 交通

高速道では、北陸道、磐越道、日本海東北道の3路線の結節点を擁し、一般道では国道7号、同8号、同116号などのほか、県道や市道が中心市街地に向けて整備されています。

鉄道は、3駅が設置されており、新潟駅には、上越新幹線のほか、在来線では信越本線、白新線、越後線が集まっています。

バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されています。

海路では佐渡航路があり、信濃川においては、水上シャトルバスが運行されています。

## 区の将来像

歴史と文化の薫りただよう、うるおいとにぎわいのまち

## 目指す区のすがた

### 魅力的で活力あふれる拠点のまち

- 様々な都市機能が集積した都心を有する区として、ヒト・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして訪れる人にとって魅力的で、にぎわいあふれるまちを目指します。
- 美しい景観形成に努めるとともに持続可能な公共交通体系の整備を進め、まちなかの活性化を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたいくなる利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。

### 安心してすこやかに暮らせるまち

- 下町（しもまち）をはじめ少子高齢化が進展する中、区民のつながりを大切にして地域コミュニティを充実させ、互いに支え助け合い、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを目指します。
- 多様な人々が行き交う生活環境において、子どもたちを安心して生み育てる環境の整備に努め、家庭・地域・学校が連携を深めることで子どもたちが健全に育まれるまちを目指します。
- 自然災害や都市型災害など、災害時に区民一人ひとりが適切な判断と行動をとれるような仕組みづくりやコミュニケーションづくりを進め、災害に強いまちを目指します。

### 水と緑が調和したやすらぎのあるまち

- 都心部を流れる信濃川とともに、鳥屋野潟、日本海の豊かな水辺や緑を守り育むことで愛着と誇りを持ち、自然と共生できるやすらぎのあるまちを目指します。

### 未来につなぐ歴史・文化のまち

- 開港5港の一つとして古くから栄えた風情あふれる湊町文化を受け継ぐとともに、食文化の交流や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより、様々な文化が融合した、未来につながるまちを目指します。
- 新潟まつりをはじめ、各地域に伝わる歴史・文化を若い世代に語り継ぐことで、住む人々が文化の継承やまちなみの保存に対する意識を高め、郷土を大切に作る人づくりのまちを目指します。

# 各区のすがた

項 目		新潟市全体	北 区	東 区	中央区	
人 口	総数 (※1)	平成22年人口(人)	811,901	77,621	138,096	180,537
		平成47年推計人口(人)	701,875	63,954	113,153	165,059
	15歳 未満	平成22年人口(人) 割合(%)	103,346 (12.8)	10,243 (13.2)	18,420 (13.4)	21,097 (11.9)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	67,380 ( 9.6)	6,517 (10.2)	11,882 (10.5)	16,294 ( 9.9)
	15～ 64歳	平成22年人口(人) 割合(%)	516,311 (64.0)	49,678 (64.2)	88,217 (64.2)	117,426 (66.0)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	391,575 (55.8)	35,743 (55.9)	63,877 (56.5)	98,903 (59.9)
	65歳 以上	平成22年人口(人) 割合(%)	187,371 (23.2)	17,477 (22.6)	30,700 (22.4)	39,495 (22.2)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	242,920 (34.6)	21,693 (33.9)	37,394 (33.0)	49,862 (30.2)
		単身高齢者数(人)	23,054	1,616	4,179	7,610
		65歳以上人口に占める 単身高齢者数の割合(%)	12.3	9.2	13.6	19.3
	人口 動態	年間増減(人)	-1,452	-445	-175	407
		うち自然動態(人)	-2,073	-243	-222	-237
		うち社会動態(人)	621	-202	47	644
	世帯	世帯数(世帯)	312,533	26,050	54,447	85,405
		1世帯あたりの人員(人)	2.60	2.98	2.54	2.11
核家族の割合(%)		54.2	57.6	58.4	47.7	
単独世帯の割合(%)		30.6	21.2	28.8	44.2	
3世代世帯の割合(%)		10.8	16.2	8.7	4.5	
面積	面積(km)	726.10	107.92	38.77	37.42	
農業	農家戸数(戸)	12,690	1,992	362	254	
	農業就業人口(人)	19,068	3,069	515	375	
	うち65歳以上の割合(%)	53.9	55.8	52.2	48.3	
	経営耕地面積(ha)	30,617	4,501	685	444	
工業	事業所数(所)	1,160	181	220	161	
	従業者数(人)	35,432	6,105	8,156	2,287	
	製造品出荷額等(億円)	10,050	2,528	2,911	374	
商業	事業所数(所)	7,853	557	1,167	2,647	
	従業者数(人)	61,628	3,929	10,194	20,775	
	年間商品販売額(億円)	31,664	1,202	5,292	12,824	

資料：人口：国勢調査（H22）、推計値（新潟市全体）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」、推計値（各区）はH22国勢調査を基準として新潟市推計、人口動態は新潟県人口移動調査（H25）  
 世帯：国勢調査（H22）  
 面積：国土交通省国土地理院（H25）  
 農・工・商業：世界農林業センサス（H22） 経済センサス-活動調査（H24）

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目		
69,365	77,329	46,949	161,264	60,740	平成22年人口(人)	総数	人口
68,834	67,638	36,798	141,792	44,920	平成47年推計人口(人)	(※1)	
9,584 (13.8)	10,156 (13.2)	5,981 (12.8)	20,430 (12.7)	7,435 (12.3)	平成22年人口(人) 割合(%)	15歳未満	
7,677 (11.2)	6,640 ( 9.8)	3,482 ( 9.5)	13,103 ( 9.2)	4,163 ( 9.3)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
43,561 (62.9)	47,069 (61.0)	29,639 (63.3)	103,383 (64.5)	37,338 (61.6)	平成22年人口(人) 割合(%)	15~64歳	
39,887 (57.9)	38,493 (56.9)	19,101 (51.9)	80,590 (56.8)	22,563 (50.2)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
16,077 (23.2)	19,953 (25.9)	11,228 (24.0)	36,561 (22.8)	15,880 (26.2)	平成22年人口(人) 割合(%)	65歳以上	
21,270 (30.9)	22,505 (33.3)	14,215 (38.6)	48,099 (33.9)	18,194 (40.5)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
1,423	1,935	762	4,325	1,204	単身高齢者数(人)		
8.9	9.7	6.8	11.8	7.6	65歳以上人口に占める 単身高齢者数の割合(%)		
-231	-228	-390	199	-589	年間増減(人)	人口動態	
-141	-313	-167	-359	-391	うち自然動態(人)		
-90	85	-223	558	-198	うち社会動態(人)		
22,963	26,141	14,113	65,255	18,159	世帯数(世帯)	世帯	
3.02	2.96	3.33	2.47	3.34	1世帯あたりの人員(人)		
60.7	58.3	53.9	54.2	52.7	核家族の割合(%)		
18.8	19.7	16.2	33.7	15.8	単独世帯の割合(%)		
15.0	16.6	24.1	8.2	25.1	3世代世帯の割合(%)		
75.46	95.38	100.83	93.81	176.51	面積(km <sup>2</sup> )	面積	
1,750	1,667	2,272	1,446	2,947	農家戸数(戸)	農業	
2,506	2,162	3,627	2,491	4,323	農業就業人口(人)		
57.1	61.6	52.1	45.4	54.0	うち65歳以上の割合(%)		
3,424	3,556	5,918	4,081	8,008	経営耕地面積(ha)		
124	95	131	87	161	事業所数(所)	工業	
5,111	2,648	5,354	1,497	4,274	従業者数(人)		
1,184	664	1,427	279	683	製造品出荷額等(億円)		
722	632	465	1,088	575	事業所数(所)	商業	
6,297	4,084	3,305	9,829	3,215	従業者数(人)		
2,401	884	2,854	5,315	891	年間商品販売額(億円)		

(※1) 平成22年人口総数には年齢不詳者も含まれているため、年齢3区分別人口と一致しない。  
総数に占める割合は年齢不詳者を除いて算出している。  
平成47年推計人口の新潟市全体は国立社会保障・人口問題研究所資料、  
区別人口は新潟市推計によるため合計値は一致しない。